

平成 30 年度 全国高等学校定時制通信制大会

出 場 記 念 文 集

陸上競技部

卓球部

バドミントン部

バスケットボール部

山形県立霞城学園高等学校

目 次

学校長あいさつ P1

定時制

○陸上競技部 P2・3

○卓球部 P4・5

○バドミントン部 P6・7

○バスケットボール部 P8・9・10・11

通信制

○陸上競技部 P12

○バドミントン部 P13

山形新聞 記事 (6/26・8/1)

全国大会の経験を糧に

校長 浅黄 喜悦

平成30年度、山形県予選を勝ち抜き定時制19名・通信制8名、計27名の生徒達が全国高等学校定時制通信制体育大会の出場を果たしました。これは生徒達の日頃の練習の成果であることはもちろんのこと、顧問の先生方の指導、ご家族の理解と支援、同窓会の皆様の後輩への思いなどの結晶であると思います。支えていただいている全ての皆様に、厚くお礼を申し上げます。

私は年度当初、始業式において「場を整える」という言葉を全校生に贈りました。心と身体のバランスを図り良い環境の中で、学校生活の一つひとつの場面を大切に充実させようということです。部活動も同様です。部活動は学校を元気にします。特に運動部の活躍は学校を躍動させます。本校を取り巻く部活動環境は、パーフェクトに整備されている状況とはいえませんが、最大限取り組める範囲の中で生徒達が自主的・自発的に活動しています。そのような中、陸上競技部・卓球部・バドミントン部・バスケットボール部が見事全国大会出場を果たしました。大会では、陸上競技の100mハードルにおいて、通信制の八代阿理沙さんが見事全国第二位入賞を果たす等、選手達は自分の持てる力を遺憾なく発揮し全国の舞台で大活躍してくれました。この貴重な経験をこれからの学校生活・社会生活に生かしてくれるものと確信しております。

昨年3月スポーツ庁により「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、本県でも12月に「山形県における運動部の在り方に関する方策」が示されました。本校はその内容を遵守しつつ、定時制・通信制という環境のもとで、これからも生徒達が輝く部活動を模索して参ります。尚、本校の「学校の運動部活動に係わる活動方針」については、来年度へ向けて策定を急いでいるところです。

本文集には出場した生徒の戦績と感想文を掲載しました。生徒達の達成感・悔しさ・感謝の気持ち等を感じとっていただけたら幸いです。今後とも本校部活動に対し、ご理解とご声援を賜りますようお願い申し上げ、あいさついたします。

全国定時制通信制高校総体 陸上競技大会報告

日時：8月9日（木）～12日（日）

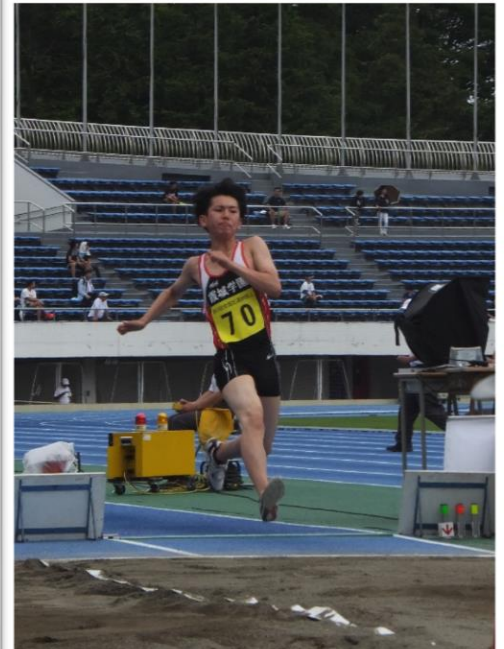
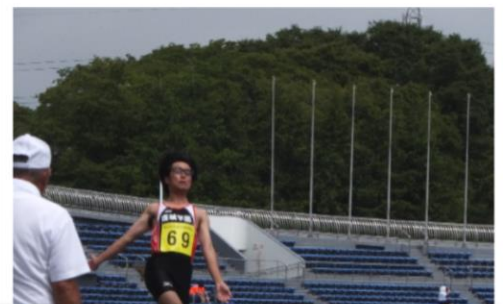
場所：駒沢オリンピック公園陸上競技場

Ⅱ-4	板垣裕斗	男子走幅跳	予選	4m97
Ⅱ-3	佐々木雅人	男子走幅跳	予選	5m07
Ⅱ-3	佐藤勇太	男子400m	予選	1分03秒98
		男子800m	予選	2分45秒30

出発前は台風による影響が心配されたものの、無事に着くことができました。風がやや強く、湿度が高くて高温という天候でしたが、誰も怪我もなく過ごすことができました。

3名4種目の参加のうち、男子走幅跳の2名は自己ベストには及びませんでしたが、県大会の自己記録を更新することができました。男子400mと800mは県大会後の調整不足により県大会の自己記録にあと少しという結果になりました。

卒業年次である板垣と佐々木は高校最後の大会となり、記録以外の精神的な成果を得たようです。それを今後の生活に活かしてほしいと思います。残るのは佐藤1名という厳しい状況ですが、来年度に向けて、再び心身とも鍛え直していきます。応援ありがとうございました。



陸上競技部

Ⅱ部四年次 板垣裕斗

県大会の時思うような記録が出せず悔しい思いをした。特に私は今年最後の大会だったので、かなり悔しかった。正直今までの競技人生で一番悔しい思いをした。そこで私は最後の全国大会でこんな思いをしたくないと思ったので、自分なりに考えゼロの状態から練習を再開した。

大会当日競技を終えると自分は清々しい気持ちで終わっていた。今回の大会を通して私の知らなかった弱点や欠点がわかった。結果は良くなかったが、自分にとって収穫のある大会となった。

Ⅱ部三年次 佐藤勇太

私は400mと800mに出場しました。試合が始まるまでの緊張と恐怖は、県大会の時よりひどかったです。しっかり走りきれるのか等不安なことも多々ありましたが、共に戦っているメンバーと支え励まし合って試合に臨みました。結果は予選400m5位・800m6位という結果で終わりましたが、自分の今出せる力を出し切ったので後悔はありません。しかし、今いるメンバーとは今年で最後なので寂しい気持ちもあります。共にもっと戦いたいです。来年からは自分しかいませんが、またこの全国大会に出場できるように頑張りたいと思います。

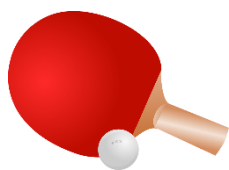
Ⅱ部三年次 佐々木雅人

私は最後の全国大会を通して、陸上競技に取り組んできたこれまでの学校生活（練習）がとても有意義なものだったと実感することができました。

平日は陸上競技場やグラウンドを使うことができず、体育館での効率的な練習をすることができました。平日は基礎的なトレーニングを中心に、休日は種目の具体的なトレーニングを中心に行うことで記録向上を図りました。

大会当日は、高校二年間の自己ベストを更新することができ、良い結果だったと思います。たくさんの応援やサポートありがとうございました。

全国高等学校体育大会定時制通信制 第 51 回 卓球大会 報告

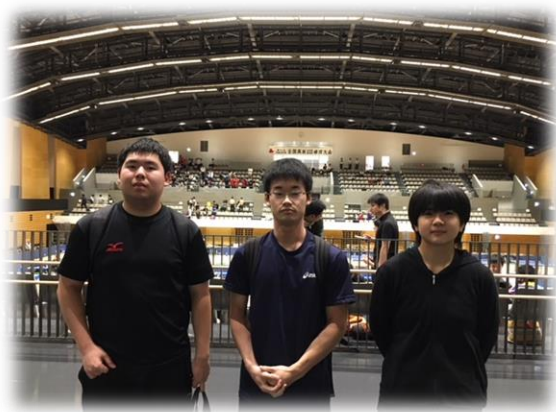


平成 30 年 8 月 6 日 (月) ～ 8 月 8 日 (水)

駒沢公園 屋内球技場

競技名	種 目	【女子個人】	
卓球	二回戦	石澤 瑞希 (霞城学園(定)) 0	細谷 遥 3 (八洲学園・横浜) 神奈川
		4 - 11 6 - 11 3 - 11	
競技名	種 目	【男子個人】	
卓球	一回戦	阿部 洸太 (霞城学園(定)) 1	佐々木 凜 3 (尾上総合) 青森
		10 - 12 11 - 9 7 - 11 7 - 11	
	二回戦	前川 展陽 (霞城学園(定)) 0	佐々木俊輔 3 (学悠館) 栃木
		7 - 11 1 - 11 6 - 11	

三人とも初戦突破はならなかったが、これまで積み重ねた練習の成果を出そうという意気込みが感じられ、大変有意義な大会となった。前川君はチームのキャプテンとして練習からリードし、阿部君は冷静な試合運びで内容の良い試合を展開、石澤さんは敗退を喫したが、本人は次の試合にもはや切り替え前向きである。



三人での大会出場がこれが最後。小人数であったがゆえのまとまりの良さでここまで活動してきた。

前川・阿部選手お疲れさまでした。

卓球

Ⅱ部四年次 前川 展陽

私は4年次になり、定通総体の参加もついに最後になりました。中学生の時に始めて、高校に進んでも続けてきた卓球も最後の大会になるかもしれないと思うと少し寂しくもあり、またここまでやってきたという達成感も感じました。

全国大会では残念ながら初戦敗退と悔しい結果に終わりましたが、県大会では1位になり、高校での卓球も最後に良い思い出ができたと思います。卒業してから卓球をやる機会があるかわからないですが、これまでの卓球の経験を大切にしていけたらと思います。最後にこれからの卓球部員にも良い経験だったと思えるように卓球を楽しんでもらいたいです。

I部二年次 石澤 瑞希

私は今年も全国大会に出場することができました。結果は初戦敗退という悔しい結果となってしまいました。この悔しさをバネに、これからの練習では気を引き締めて練習していきたいです。

来年は県大会で優勝して全国大会に出場し、一試合でも多く勝てるように日々の練習でしっかり練習メニューをこなして、課題を克服していきたいです。

全国定時制通信制高校総体 バドミントン競技 大会報告

霞城学園生徒の入賞等はできませんでしたが、いいプレーが随所に見られました。出場かなわなかった生徒も控えメンバーとして、そして線審含めた運営面に真剣に取り組むことができ、引率者として誇らしく思っています。全国というレベルの高いプレーに触れ、向上心を持って頑張りたいと気持新たにした部員もあり、来年在望です。応援いただきまして、ありがとうございました。

日時：8月16日～18日

場所：小田原アリーナ

○男子団体

1回戦 対鹿児島県	1-2で敗退		
ダブルス	小木曾（霞Ⅳ）	2-0	平野
	佐々木（霞Ⅳ）		田中
シングルス1	菅原（鶴工）	0-2	井上
シングルス2	金子（霞Ⅱ）	0-2	野村

○女子団体 ※1回戦なし

2回戦 対富山県	1-2で敗退		
ダブルス	安達（霞Ⅳ）	0-2	安嶋
	瀧元（鶴南）		加納
シングルス1	荒川（米工）	0-2	吉田
シングルス2	工藤（鶴南）	2-1	林

○男子個人

1回戦 金子泰己	不戦勝	磯部玲音（愛知）	棄権
2回戦 金子泰己	0-2	内田達也（栃木）	



バドミントン部

Ⅱ部四年次 武田光人

私は全国大会に出場して、色々な人を見ました。特に、神奈川県・東京都・北海道の選手はとても上手く、自分もあんな選手になりたいと憧れるほどでした。中でも第一シードの北海道の選手は、プレーの全てにおいてレベルが高く、岩手県のコーチ兼選手として出場している人を圧倒している時は目が離せませんでした。私は団体戦に出場する予定でしたが、惜しくも一回戦で負けてしまい出場は叶いませんでした。私は今年で卒業なので、来年は出場できませんが、後輩達が今年よりも勝ち進んで活躍できるよう、精一杯応援しています。

Ⅱ部三年次 金子泰己

やはり全国大会は、県大会とは何もかもが違うように感じました。選手のプレーの質や気合い、そして応援の声、どれもとってもとても凄く良い経験になりました。結局試合には敗れましたが、レベルの高い選手とプレーすることができてとても良かったと感じています。

私はこれで引退とですが、これからも練習に顔を出してバドミントンを楽しんでいきたいです。

Ⅲ部四年次 渡辺菜々子

私は8月16日～19日の4日間、小田原アリーナで全国大会に出場してきました。1年生の時から4年間出場できた事は大変嬉しく思います。一年生の頃はよく分からないまま出場することになってびっくりした事を今でも覚えています。全国の舞台は県大会のレベルとは全く異なります。各県を勝ち抜かれてきたチームの方々は強い方が多いので、私には足元にも及びません。毎年毎年その方々のプレーを見て学び悔しい思いをバネに日々の部活に励み、少しでも相手とのラリーを続けようと頑張りました。結果を残すことはできませんでしたが、毎年楽しむことができたので、いい思い出になりました。横川先生はじめ、たくさんの先生方に感謝しています。ありがとうございました。